



第62号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

〈E-mail〉

matsuoka@kosanji.or.jp

春季彼岸永代経説教聴講 「命とは何か」

秋田宗和

今年も三月二十日から二十二日にかけて春季彼岸永代経が執行され、名古屋教区教化センター前田健雄師による『命について』説教を拝聴した。

蓮如上人の御文一帖十一通、「お寺とは」、友松圓諦氏著書「人間と死」などを引用され、興味深いお話であった。「命」なんと含蓄のある言葉であろうか！この世に生を享け六十有余年、生きることの専念し？「命」の意味について今迄なんと疎かにしてきたことか。師に「命」について質問され、思わず「解りません」と答えてしまった。インターネット等によれば、「命」とは多様で奥深い意

味を持つ概念であり、生物の生きる「力」「期間」「生きていく大もとの外に現れる働きのもと」とのこと。

関連語として使命、寿命、生命、宿命、運命、天命、余命、命理等があり、特に命理とは自分の天命や運命を知る方法という意味とのこと。これらを包括して「命」と言うのだとすれば、先ほどの答も、一言で表現するには難しく、前にも記した通りなんと含蓄のある言葉なのだろうか。

夫々の意味はさておき、師の言われるところは、日常生活（生き様）を大切にして、お寺という場所を通し、生き様を確かめていくこと。「生」が終り、死後となってもその人の生きた証は子々孫々、有形無形の形で残っていくであろう。命とはそのように生きながらえていくものだから。同時にお寺という存在がそういう事を気づかせてくれる所である。師のお話は凡そこういう事ではなかったろうか。師のお話を拝聴し、この事を改めて気づかせて頂いた事を心から感謝致します。

合掌

これからのお寺

高齢化と人口減少が進む昨今、科学技術が進歩したことにより情報の洪水をもたらしています。人と人とのつながりは希薄化し、情報伝達や会話も携帯電話の普及により、会って話す機会が少なくなりました。

昔に比べれば、隣近所との付き合いもほとんどなくなり、人が集まって話をしたり、親睦を深める雰囲気もなくなってきました。あまり他人様とは深くは付き合いをしたくないという、自分と他人との関係を築きたくないという人も増えてきたように思います。それが孤独社会の中身です。それを反映してか、お寺に来る人も減少してきているのが現状です。

さらに、お寺特有の堅苦しさは、どんな人でも気軽にお寺に行くという意思をつみとってしまっています。そんな状況を打ち破れないかという門徒の思いが「廣讚寺こども会」発足に至りました。今の若い人たちに寺に来てもらい、お寺の門をくぐる敷居を低くし、開かれた寺になる事を願われています。

この「こども会」がこれからの人々にとって、いのち

を真摯に考えていただけるきっかけになってももらえればと願っております。

次世代につなぐ

これからの日本はどうなっていくのか？

これから高い確率で天変地異が起こるとされている

これから自然破壊の後遺症も

出てくるであろう

そんな不安の中を生きていく

子供たち

これから何をよりどころとして生きていけばいいのか？

本当の幸せを求めて



満80歳、地球2周の 8万キロのゴールに向かって

井上きよし

50歳からランニングの記録をするようになって、あと少して30年間走り続けていることになりました。

その間、突発性心房細胞、帯状疱疹、急性肺炎を患い入院生活をしたり、愛犬に噛まれて治療する日もありました。それを患っていた間も軽いトレーニングをして、筋力や体力の低下を最小限に保って、できるだけ早く復帰するように努めてきました。

しかし、2011年11月に脊柱管狭窄症が発症し、痛み、しびれがひどく、歩行も座位もできない日々が続き、お先真っ暗になりました。それまでの総走行距離は7万8千キロに達していましたが、地球2周の8万キロまで約2千キロを残し不安がいつぱいでした。

その後、歩行、休息、ジョギングの時間や距離を延ばし、昨年末までに7万9千キロを超えることができ、目標達成への望みが沸いてきました。満80歳を迎える今年、地球2周分の距離を走行するという目標を成し遂げ、これからも元気でいたいと思います。

わかっているつもりがわかっていない

他人を一〇〇%わかることは不可能だ。

それはそうだ。

しかし、親しい人、親であったり子供であったりしても、本当はほとんどわかっちゃいないことに気付かないといけない。

他人だって、自分のことなんて、ほんのわずかしかわかっちゃいない。自分だって、自分のことを見事にわかつちやいない。この世界のことだって、自分の視野で見ることができない。

仏教で『八正道』の中で正見という言葉がある。物事を正しく見るといふ行いをする事が、悟りを開く条件とされているが、欲望や偏見に満ちた我々が自我を入れずに物事を見ることは不可能である。だから親鸞聖人がおっしゃるように、私が「これは善、これは悪い」という事は単なるそらごとであるということなのであろう。

行事予定

五月五日(日) 復興永代経執行

十時 おつとめ おとき

説教 勅使英照師

※午後は特別プログラムとして有志による詩吟・民謡・舞踊など廣讚寺座による演劇もあります

五月十一日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(日) 二時～四時 学習会

二十八日(火) 十時 二十八日講・女人講

六月八日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(水) 二時～四時 学習会

二十八日(金) 十時 二十八日講・女人講

【20組行事予定】

推進員養成講座 五月十八日(土) 一時半より

六月 八日(土) ”

六月 二十二日(土) ”

懇親会 六月二十九日(土) 一時半～五時

ご報告

親鸞聖人七百五十回御遠忌お持ち上げ法要の顧問
および、親鸞聖人七百五十回御遠忌法要の委員長な
らびに、先代住職が亡くなられた時に葬儀委員長を
務めて頂きました、寺西学さんが三月二十二日に還
浄されました。
合掌

廣讚寺 年忌法要のお知らせ

前住職 讚海院釋亮昭 三回忌法要

前坊守 廣嘉院釋妙文 一周忌法要

を、左記の通り、勤めます

六月十六日(日)

午後三時～四時半 法話

講師 同朋大学大学院教授

生命倫理学者 田代俊孝先生

午後五時～ おつとめ